

## 令和6年度の全国学力・学習状況調査における上中学校の調査結果

今年度は、4月18日(木)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する内容については今年度も結果の正答率だけでなく、無回答率にも着目して分析しました。学習状況については今年度の市内・奈良県・全国の中学校の数値と比較しながら、本校の傾向を考察しました。

### 教科に関する調査結果の概要

国語・数学2つの教科共に調査結果について各領域の正答率の傾向は奈良県および全国と同様であり、平均正答率は、生駒市・奈良県及び全国をすべて上回っています。アンケートの回答からも、国語・数学共にその教科を学ぶことが大切だと感じている生徒の割合は85%以上であり、「授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では役に立つと、とらえている生徒は数学より国語の方が若干多いことが分かりました。調査結果の無回答率に着目してみると、国語では、5%を超える設問は16問中3問あり、その中で8.8%が最も多い無回答率でした。数学では15問中4つの設問に対して無回答率が10%を超えていましたが、解答全体では無回答率は全国よりも低く国語・数学共に最後まで取り組んでいることが分かります。

#### 国語について

思考・判断・表現に関する問題で且つ記述式で回答する設問の無回答率は5%以上あり、正答率は50%を下回る問題もある状況でした。これらは話し合いの話題や発言を受け自分の考えを書く、着目する内容を決めて要約する、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書くこと等に関する設問であり、本校でも全国同様、これらの問題に課題があることが分かります。

「国語の授業で話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」の質問に、「当てはまる」と答えた生徒は約11%であったことから、これらの課題への取り組みとしては、話し合いや論述、説明などの言語活動を授業で工夫して取り込んでいく必要があると考えます。

#### 数学について

国語と同様に、思考・判断・表現に関する問題で且つ記述式で回答する設問では、正答率が60%までにとどまっており、且つ無回答率が10%を超えています。

特に、複数の集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが出来るかどうかをみる問題は、正答率も30%程度にとどまっており、また事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題においては正答率30%を切っています。これらは全国においても課題となっていますが、本校でも同様であると考えます。

「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか」の質問には当てはまる21%、どちらかと言えば当てはまる33%、どちらかと言えば当てはまらない24%当てはまらない20%と、どの回答もほぼ同じ割合であることから、数学の授業からは実生活に関連づけて考えることはあまりなく、数学の問題を解きこなすといった状況であるように思います。

普段の生活に活用できる知識や技能を習得させること、またこれからの社会においては様々な情報の中で必要な情報を活用しデータを読み取る力をつけることが重要になってくると考えています。

## 生活について

### 基本的な生活習慣

今年度も生徒は90%以上毎日同じくらいの時刻に起きて朝食を食べていること、毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒は80%を若干切ってはいるものの、生活習慣は定着していると考えられます。

## 行動や考え方について

### ●自己肯定感

「自分に良いところがあると思う」と答えた生徒は、80%を超えてはいますが、「当てはまらない」と答えた生徒は昨年より半減してはいるものの2.8%、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒を加えると18.6%います。学校として引き続き自分の良さを認められる取り組みを続けていくことが必要だと考えます。

「将来の夢や目標を持っている」生徒は全国や奈良県と比較すると低く、「どちらかといえば当てはまる」を加えても60%を下回っています。

「困りごとや不安がある時に、学校にいる先生や大人に相談できる」と答えた生徒は61.4%で全国や奈良県に近い結果ですがまだ低い傾向にあります。

生徒にとって心の支えになれるように、普段の生活を大切に、傾聴を心掛けて生徒たちと接する必要があると考えます。

### ●人権意識

「人が困っているとき進んで助けている」と答えた生徒は90%、93.9%の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」ことだと考えています。しかし今もいじめ事案はなくなっているわけではありません。引き続き「いじめを許さない」強い姿勢を持ち、取り組んでいきたいと考えます。また昨年と同様の94%の生徒が「人に役立つ人間になりたい」と回答しており、これは社会を支えていくことへの意識の表れとして頼もしいと感じています。

### ●学校生活や普段の生活について

「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は約85%「友達関係に満足している」は約90%、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問には「よくある」「ときどきある」と答えた生徒は約90%いました。このことから学校生活や家庭生活が充実していることがうかがえる反面、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒への思いに寄り添った対応も必要であると考えます。

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思っている生徒は約75%でした。他者の意見を聞いて自分の考えをまとめることや述べるのが課題であることは国語の学力調査結果でもあらわれていましたが、この結果からもその実態がうかがえます。

「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」この質問は複数回答が可能でしたが、「家でテレビ

や動画を見たり、SNS を利用したりしている」が圧倒的に多く、「部活動に参加する」「学習塾など学校や家以外で学習する」といった順でした。次いで「友だちと遊ぶ」という結果は友達と遊ぶことが少なくなっていることを示す結果として明らかであることはいうまでもありません。

「新聞を読んでいますか」の質問には「ほとんど・全く読まない」と約80%の生徒が答えています。現在新聞のデジタル化や新聞購読のない家庭の増加や、ネットで様々な情報がすぐに流れることが原因とも考えられますが、新聞から得られる考え方や社会情勢を知るためにも新聞を読んで欲しいと思います。図書室では新聞を閲覧できるようになっていますので利用してもらえたらと考えます。

## 学習について

### ●学習時間

学習時間は平日では2時間以上が56%、休みの日は2時間以上が60%と、全国の平均と比較しても昨年同様20%以上の差があり、平日・休日ともに学習に対して一生懸命取り組んでいる様子が見えます。

一方で、学習に対して苦手意識を持つ生徒や取り組み方がわからない生徒などに対しての支援については、昨年同様、学校サポーターの協力を得ながら放課後学習を活用し、支援の場を広げていきたいと考えます。

### ●ICT活用について

本校で、これまでの授業の（1・2年生の時の受けた授業で）タブレットの使用状況については、週に1回から3回程度であったことが今回の結果から推測できますが、ICT活用についてどのように感じているかを問う質問が多くありました。「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒の割合を合わせてみると以下の結果でした。

「自分のペースで理解をしながら学習を進めることができる」約77%

「分からないことがあった時にすぐ調べることができる」約91%

「楽しみながら学習を進めることができる」約80%

「画像や動画、音声を活用することで自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」約80%

「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」約80%

このことから、8割の生徒は、学習でのICT活用についてはその有用性を感じていることがわかります。学習でのICT活用が年々、浸透してきた表れであると思っています。

### ●学習活動について

これまでの授業（1，2年生で受けてきた授業）で、

「自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫して発表したか」の質問への回答は、全国とほぼ同じ傾向ではありましたが、

「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいた」「各教科で学んだことを活かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」「学級の生徒と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができる」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりできる」

といった質問について当てはまると答えた生徒は 20%から 30%であり全国を下回った結果となりました。このことは、先に述べた本校での国語や数学で正答率の低かった問題の結果に結びつけて捉えることができます。

総合的な学習では課題を設定して調べて発表すること、学級活動では互いに話し合い、それらを活かして自分がすべきことに取り組むこと、道徳の時間では学級やグループ活動を通して自分の考えを深めること、それらについては毎年少しずつではありますができる割合が高くなってきています。

以上のことから、課題解決に取り組む学習活動をいかに取り入れていくか、また教科横断的な学びや授業での ICT 活用について、本校の課題として捉え見直していきたいと考えます。

#### 地域とのつながりについて

##### ●地域貢献について

昨年同様約 70%の生徒は「地域や社会のためになにかしてみたい」と考えています。地域の方とも協力しながら積極的に参加できる機会、貢献できるような機会の創出に努めます。